2022.1.19

『東京 2020 オリンピック』 カヌー・ボランティア体験談

平成 13 年（2001 年）端艇部カヌー部門卒　小林　裕幸

2021 年の夏、東京オリンピックのカヌー・スプリントのボランティアに参加いたしました。
コロナ禍での開催ということで、無観客開催となってしまいましたが、カヌーを通して、自国開催オリンピックでのボランティア参加という非常に貴重な経験をさせて頂きました。せっかくの機会ですので、そのとき感じたことを以下の通り記しました。三田漕艇倶楽部各位におかれましては、何かしらのご参考にして頂けると幸いです。

［体験談：目次］

1）オリンピックボランティア　参加の動機
2）仕事内容（毎日違う仕事・コロナ対策）
3）選手を間近に見て
４）会場について

カヌースプリント　ボランティア受入日程

□プレ試合期間（カヌー仕様に準備）：2021 年 7 月 26 日～8 月 1 日
□試合期間　　：2021 年 8 月 2 日～7 日
※ボートは、カヌースプリントの前の日程で、2021 年 7 月 23 日～30 日　同じ会場で実施済。
□試合会場：海の森水上競技場
［お台場の沖に、東京オリンピックのボート競技・カヌースラローム競技の為に整備された
恒久漕艇場　上写真］

※オリンピックのカヌー競技には、羽根田卓也選手で有名になった 「スラローム」 と、私が参加した「スプリント」 の 2 種類あります。会場も、選手も、日程も、ルールも全く違うので、交流はありませんでした。ちなみに、スラロームの会場は、葛西臨海公園の横に新設された恒久施設です。下写真

１）オリンピックボランティア　参加の動機

私の参加動機としては、純粋に、学生時代そして社会人になっても、大変お世話になっているカヌー界に対して、「何かしらの形で、微力ながら、恩返しがしたい。」 という想いがあり、東京オリンピックが決まってから、ずっと胸に秘めておりました。また、金メダリストが、金メダルを取る瞬間を、会場に居て、この目で確かめたい。という想いもありました。そんな折、学生時代お世話になっていた、日体大カヌー部出身で、大会組織委員会に派遣されていた方からも、是非参加して欲しいと声を掛けられていたので、迷わず希望しました。

そして、「非日常空間」の体験が出来ることも魅力の一つでした。普段、日常生活や、仕事をしたりしている中では味わえない経験ができることが、オリンピックの楽しさだと思います。期間中、ずっと緊張感と賑やかさが入り混じる空間に当事者の 1 人としていられるのは、ものすごく刺激的な経験です。

しかし、今回は大変残念ながら、コロナ禍の厳戒態勢であることと、無観客となったことで、決して、賑やかさはありませんでしたが、毎日選手たちを身近に見られるボランティアに就くことができました（ボランティア登録時点では、観客誘導や、施設管理のボランティア業務や、東京の街中で英語を駆使して案内役を務める業務も選択肢でしたが、その業務自体がなくなりました）。金メダルを目指して、真剣にカヌーに取り組んでいる、最高峰の選手たちを目の当たりに出来、幸せでした。

最後に、かなり個人的な動機として一つ。私の 2 人の子供はまだ 4 歳と 2 歳で小さいのですが、父親として、後々、子供たちに 「東京オリンピックの最中に何をやっていたか」 語れるようになりたい。と思ったからです。せっかく東京在住で且つ、国立競技場のそばに住んでいる身なので、なおのことでした。子供たちは、将来どれだけ記憶に残してくれるか分かりませんが、開会式・閉会式や、会場近くが準備で次第

に変わっていく様や、開催中の街の雰囲気を覚えていてくれたら。と思っております。開会式の花火は、自宅から見ることが出来、子供たちは喜んでおりました。

2）仕事内容（毎回違う仕事・コロナ対策）

　開催自体が 1 年延期され、その 1 年後の聖火リレーも全く盛り上がらない中、実際ボランティアの仕事が、どうなるかやきもきしておりました。
ただ、開会式を見て、東京がここまで準備していたのに、観客ゼロは、なんて不憫だと思っておりましたが、世界中から選手や、コーチ陣、カヌー協会の方々が来ていて、非日常は確かにありました。
　私自身、会社の仕事があったので、全ての試合日程に居たわけではないですが、大きく分けて、準備期間と、試合期間に分かれ、合計 6 日参加しました。

　準備期間での、具体的仕事は、カナダチームやブラジルチームの検艇を担当しました。国際カヌー連盟の審判団の前で、カヌーの重さ計測後に、検定シール貼ると言う作業です。また、印象的だったのは、テレビに映らないようにする為、艇のメーカー名をすべて消すためにガムテープを貼るという作業もありましたが、これが一番面倒でした。カヌーの内側のシートに書いてある企業名も隠す徹底ぶりで、手抜きをしているボランティアに対して、審判団のハンガリー人がまくし立てていて、とても怖がられていました。それだけ真剣だったのだと思います。

　試合期間で、私が担当したのは、「ミックスゾーン」と呼ばれる試合会場（コース）と選手の詰め所をつなぐエリアです。大きい括りでは、このエリアに関わる全般のボランティア業務担当です。メデイアから取材を受ける選手にマスクや飲料を渡したり、乗艇後のカヌーを運ぶ手伝いもします。
また、熱中症対策はきちんとされており、水や氷の準備もしました。

上写真：試合終了後の選手たち。船台には、審判団とボランティアがセットで待機。船運び、検艇、ドリンク渡し、マスク渡し、3 位以上はインタビュー会場へ誘導　等を分業でワークします。

上写真：男子カヤックシングル 1000m　金メダリスト　バーリント・カパシュ選手（ハンガリー）
記録 1000m　3 分 20 秒 643
ディスタンスを取って取材を受けている。この後、私がマスクを渡しました。

3）選手を間近に見て

「ミックスゾーン」 の仕事をしていると、本当に間近で選手の一挙手一投足を見ることが出来ます。当たり前ですが、決勝で、金メダルを獲得した選手は、本当に喜びを表して、輝いていました。よく、テレビ画面で見る光景とほぼ一緒でした。男女問わず 「雄たけび」 が東京湾中に響いておりました。応援する人や、鳴り物も無いので、喜びを心の底から表現して、辛いトレーニングが報われたとの解放感の波動が、よく伝わってきます。今でも思い出すと、ゾクゾクします。

また、そんな中でも、大会関係者への開催できたことに対する謝辞を発信してくれる選手の姿勢には、深く感銘を受けました。

ただ、今回心を動かされたのは、2 位以下の選手たちの表情です。カヌー競技で、特に外国人選手ですから、テレビ新聞では全く報道されません。

その日は、金メダル獲得の選手の横で、文字通り 「慟哭」 している女性選手がいました。大きな体の外国人女性が、5 分間くらい、嗚咽する姿を目の当たりにするのは、初めてでした。4 年間死に物狂いの練習をし、1 年間の延期の末、ようやく代表に選ばれ、わざわざ極東の国までやって来て、事前合宿の短縮、コロナ対策を万全にして、ようやく決勝に駒を進めたのに、たったコンマ数秒の差でこの結論になってしまうとは！というような、嗚咽です。雲泥の差の悲喜こもごもを、間近見て、勝負の厳しさと、金メダルの重みを改めて感じました。

上写真：女子 カナディアン ペア 500m 銅メダリスト ロランス・バンサン-ラポワント選手 （カナダ）
記録 1 分 23 秒 534

前日は、女子 カナディアン シングル 200m で 0.8 秒差でアメリカの選手に金メダルを持っていかれ、銀メダルに。
記録 46 秒 786
慟哭の翌日は、さすがに気持ちを切替えておられ、「Yesterday I was so moved 」 と言って、撮らせて頂きました。

上写真：バッハ会長も、応援に駆けつけていました。この写真の後、非売品のオリンピックバッジを直接渡してくれました。子供たちの、宝物になりました。

４）会場について

　最後に会場について、ご説明します。三田漕の皆さまには、まだ会場へいらっしゃったことが無い方も多いかと思います。下写真は、艇庫と観客席の写真です。

　毎朝、東京テレポート駅から、ボランティア専用バスで会場入り。会場では、まず、自衛隊による検温ゲートを通り、唾液による PCR 検査を実施、受付をしてから、ボランティアの詰所に集合し、その日の仕事を確認する。という流れです。
昼食は、各自、昼食センターのお弁当で済ませます。期間中に、お弁当大量廃棄のニュースがありましたが、カヌー会場は適正量を発注していると見受けました。3 種類のお弁当から選びます。飲み物や、アイスクリームが取り放題です。また、基本炎天下なので、熱中症対策として、体を冷やす冷却材も、自由に使えました。
試合や片付けが終わると、業務終了で帰路につきます。
謎に、選手たちを応援する、メッセージや、ポスターをひたすら書かされているボランティア達もいました。抗議の意味でボランティアを辞退した方がいるニュースもありましたが、特に決勝の日は、ボランティア労働力はかなり余剰していました。
地元江東区の小学生が準備したであろう、メッセージ付きのアジサイ鉢が、何百個も会場に置かれていましたが、閑散としている会場では、もの悲しく、気の毒でした。

リーダーシップがある大会委員会の指示者がおらず、東京都から大会委員会カヌー担当として出向してきた人たちが、試合中、勝手が分からないなりに、手探りでボランティアと進めていくような、手作り感のある大会運営でした。

※会場：アクセスは、バスか、タクシーしかなく不便です。
　□バス　都営バス 波 01「東京テレポート駅」から乗車、「環境局中防合同庁舎」下車徒歩 20 分
　□タクシー　東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」からタクシー　約 15 分
　　JR 京葉線、東京メトロ有楽町線、りんかい線「新木場駅」からタクシー　約 20 分
　□オリンピック中は、自家用車の進入不可。

自動車専用の海底トンネルを通らないと辿り着かない会場なので、車でしか行けない所です。オリンピック終了後、日常使いできるような、アクセス改善が課題です。

ちなみに、コロナ禍は受け付けていない模様ですが、コースは以下の通り、開放する予定で我々も利用できます。申し込めば、オリンピック選手と同じ体験が出来ます。

※コース利用（個人利用の場合。貸艇利用）海の森 HP から抜粋
　□ボート又はカヌー（1 人漕ぎ）　2 時間 1,500 円
　□ボート（8 人漕ぎ）　　2 時間 5,000 円

　上写真：東京オリンピックで熱戦が繰り広げられた後の 「海の森水上競技場」 をバックに。この日はたまたま、端艇部カヌー部門ＯＢが 5 名揃いました（左から、平成 4 卒中川さん［大阪からいらっしゃっていました］、昭和 63 卒加藤さん、昭和 53 卒岡本さん、平成 4 卒堀江さん、筆者）。
　※もちろん、写真撮影の前後は、各自マスク着用です！

以上